

子宮頸がんなどを
予防できる

ヒトパピローマウイルス

HPVワクチンって

安全なの？



HPVワクチンはこれまでに世界で約8億回も接種されており、他のワクチンと比べて特別に重い副反応を起こしやすいわけではないことがわかっています。

欧米では100万人以上でHPVワクチン接種の副反応を調べた研究が4件、日本でも約3万人を対象に大きな研究が行われましたが、重い神経症状との関係は認められていません。

WHO(世界保健機関)も「HPVワクチンは極めて安全性が高い」としています。ワクチン接種によるメリットと副反応のデメリットを比べた場合、メリットの方がはるかに大きいと考えられます。

HPVワクチンについて、わかりやすく詳しく解説しています→ [みんなピピ!](#) [検査](#)

ワクチン接種後に起こりうる症状

はれ、痛み(局所反応)

ワクチン接種に伴い、接種した場所に起こる炎症。多くは数日以内に改善します。



アナフィラキシー

接種後にじんましんや咳等のアナフィラキシー症状が起くるのは約96万回に1回。接種後30分間は病院で安静に。



神経系の病気

ワクチン接種後に神経系の病気等が起こることも。非常に大きな問題で見過ごせませんが、HPVワクチンが原因で特に起こりやすいというデータはありません。



他のワクチンより危険性が高いわけではありません

不安による心身の反応

10歳以上の児童では、痛みや不安等で自律神経が刺激され、一時的に血圧が下がって失神・過呼吸や気分が悪くなることも。注射前に緊張したり、以前注射で気分が悪くなったことがある方は症状を起こしやすいため、ベッドに横になって接種などの対策があります。



そもそも...

子宮頸がんって？



女性の子宮の入り口付近にできる「がん」で、日本では**20～40代**の女性を中心に**毎年約1万人**が新たに子宮頸がんと診断され、**年間約3,000人が亡くなっています**。また、子宮頸がん患者の**9割近くで子宮摘出等の手術や抗がん剤治療が必要**になり、子どもを産むことができなくなる方も少なくありません。

子宮頸がんの**95%以上がヒトパピローマウイルス (HPV) の感染**によるもので、**17歳未満でHPVワクチンを接種すると子宮頸がんの88%を防ぐ**ことが報告されています*。

接種した人も20歳をすぎたら子宮頸がん検診を受けましょう。 ※ N Engl J Med 2020; 383:1340-1348.

約8割の女性が
HPVに感染

年間約1万人が
新たに診断

20～40代
女性に多い

検診では異常が出てから
しか見つけられません



ワクチンを接種するには？

HPVワクチンは定期接種として、**小学6年生から高校1年生の女子**は無料で接種できます。**中1が標準的な接種年齢**です。



接種の手順

1 自治体ホームページ等でHPVワクチンの予診票の受け取り方を確認。



2 医療機関に電話をしワクチン接種の申し込み。



3 当日は医療機関から指示された書類(予診票、母子健康手帳、健康保険証等)を持参して受診。



接種後に体調を崩したら

接種後に、気分が悪い状態が続いたり、接種部位の強い痛みやしびれを感じたりする場合があります。頻度は1万人あたり5人と非常にまれで、その約9割は回復することがわかっています。もし接種後に気になる症状がある場合は、接種した病院や周りの大人に遠慮せずに相談しましょう。



HPV感染症に関する正確な知識を伝え、皆様の健康増進に寄与することを目指しています。



2020年10月作成



日本小児科学会・日本外来小児科学会はこの活動を応援しています。